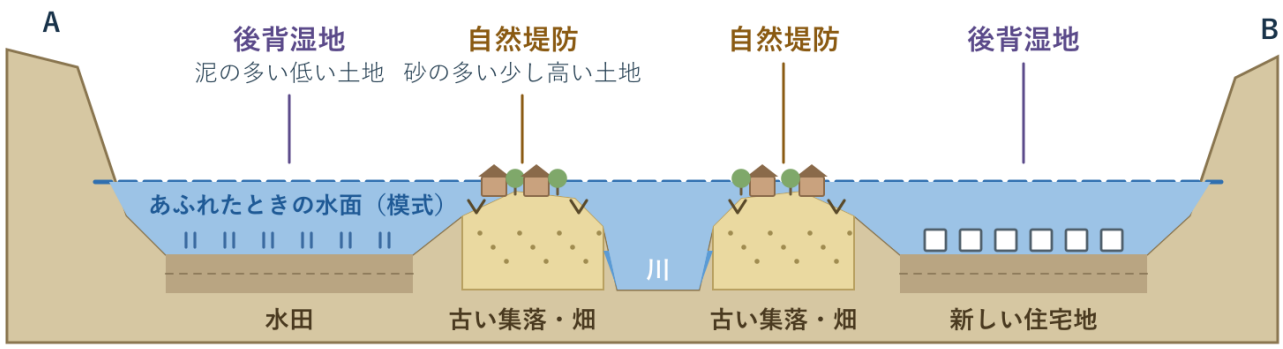
自然堤防と後背湿地：川沿いの集落と水害

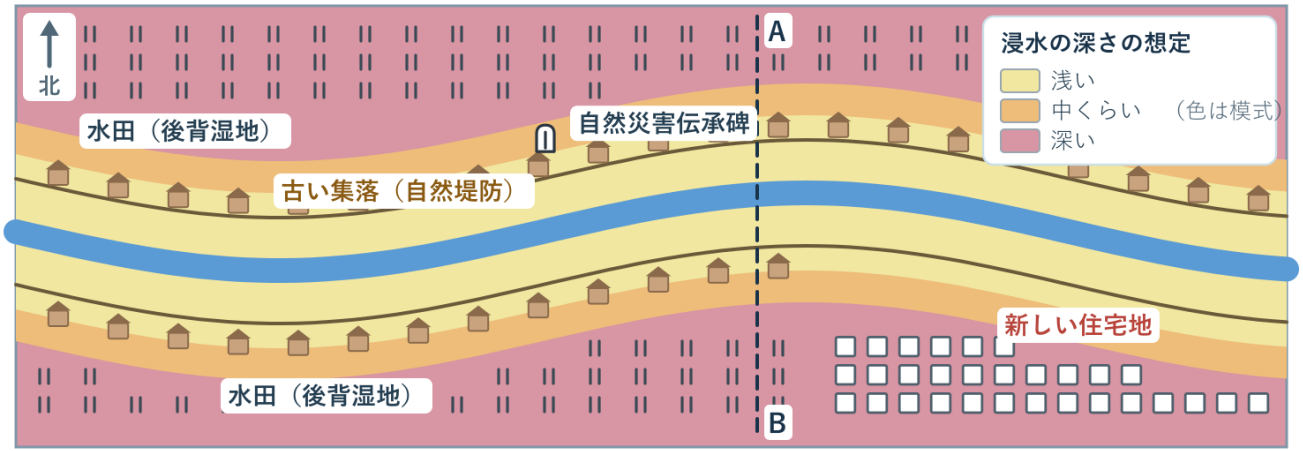
川沿いの平野で、古い集落が少し高い所に、田が低い所に多いのはなぜか

川に直角に切った断面（A-B。高さは強調）

発展



同じ範囲を上から見た図（架空の町）と浸水の深さの想定（模式）



土地の高さと住む場所

自然堤防（少し高い）

川が運んだ砂が、岸に沿って積もってできた土地

- 昔から集落・畑・道
- 浸水しても浅いことが多い

後背湿地（低い）

自然堤防の外側で、泥がたまってできた土地

- 昔は水田
- 新しい住宅地になった所も
- 水がたまりやすく、深い

昔の土地の選び方は、水害の起こりやすさと関係する

→ 古い地形図やハザードマップで、土地の成り立ちを確かめる

自然災害伝承碑（過去の災害を伝える）

※ 架空の平野の模式図。浸水の深さは色で示した模式で、実際の想定は地域のハザードマップで確かめる。